

炎症性腸疾患の治療は抗 TNF- α 抗体製剤の登場によって激変した。そして、抗 TNF- α 抗体の成功は、さまざまな分子が絡み合う複雑な免疫反応を、たった一つの分子を阻害するだけで、「粘膜治癒」という炎症がまったくない状態にまで抑制できることを証明した。その結果、抗 TNF- α 抗体以後の炎症性腸疾患治療薬の開発は分子標的薬にシフトした。そして、現在では難治性炎症性腸疾患の治療薬として、抗体製剤 5 種類(標的分子 3 種類)、経口 JAK 阻害薬 1 種類が上市されている。さらに、松浦らの稿にあるように今後も新しい分子標的薬が次々と登場してくる。

これだけ多くの分子標的薬を治療選択肢として手にすると、それぞれの薬剤について作用機序、治療効果、副作用、そして製剤の特徴について理解したうえで使い分ける必要がある。本特集では、各分子標的薬についてエキスパートの先生に解説していただいた。そして、まだ登場したての薬も多い分子標的薬には、未解決のクリニカル・クエスチョンも多い。本特集では、こういった未解決のクリニカル・クエスチョンについても、現在あるエビデンスの範囲でできる限り解説していただいた。さらに、治療戦略の変化、手術への影響、悪性腫瘍、妊娠・出産、そして COVID-19 パンデミック下での治療など、分子標的薬に関わる話題も幅広く解説していただいた。

分子標的薬によって炎症性腸疾患の治療は飛躍的に進歩したが、課題も残されている。これらの分子標的薬は、中村らの稿にあるように治療指針では難治性炎症性腸疾患に対してほぼ横一列で記載されている。実際、それぞれの薬剤が目の前の患者さんに対して有効であるかどうかは投与してみないとわからないのが現状である。今後は、各薬剤の治療効果を投与前に予測できるようなバイオマーカーの開発が急務であると考え。

本特集によって、炎症性腸疾患に対する分子標的薬を正しく理解し、それぞれの薬剤を適切に使いこなすことで、一人でも多くの患者さんの QOL の向上につながれば幸いである。

松岡克善(東邦大学医療センター佐倉病院消化器内科)

INTESTINE

Vol.25 No.3

©2021 年 9 月 20 日発行

定価 3,520 円(本体 3,200 円 + 税 10%)

●年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、書店または弊社までお問い合わせ下さい。

・ Published by Nihon Medical Center, Inc.

© 2021, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・ **JCOPY** 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上の例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(☎ 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

編集 『INTESTINE』編集委員会

発行人 増永 和也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-64(協和ビル)

営業直通電話 (03) 3291-3901 (代) FAX (03) 3291-3904

e-mail info@nmckk.co.jp

編集直通電話 (03) 3291-3971 (代) FAX (03) 3291-3377

e-mail intestine@nmckk.co.jp

印刷所 シナノ印刷株式会社

広告申込所/株式会社 文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 電話 (03) 3814-8541